

主体的・対話的で深い学びの実践シート（農業・水産）

1 日時・場所	令和6年11月6日（水）4限 令和6年11月8日（金）2限	3 A I 教室 資料展示室
2 対象・人数	農業科 3年生 A I 組・24名、A II 組・22名	
3 科目・単元名	生物活用	第2章園芸作物の栽培と活用 2 草花の栽培と活用④フラワーデザイン
4 本時の目標	・フラワーデザインの一種であるフラワーアレンジメントのうち「コサージュの制作」を実施し、制作に必要な基本的な技術を身に付ける。 ・動画撮影を行い、自身の動作を他者と比べることで制作に必要なワイヤリングやテーピングの基本的な技術を向上させる。	
5 生徒の実態や課題	・数学との選択で農業科目を選択した生徒である。科目「総合実習」では果樹、野菜、畜産、草花の4専攻に分かれており、全体での草花の学習は1年次の総合実習（ローテーション）と2年時の座学のためのため、実験・実習の機会が少ない。 ・身近な草花の活用を通して、草花に興味・関心をもたせることと、日常生活に取り入れられるような基本的なアレンジメントの技術を身に付けることが課題である。	
6 主体的・対話的で深い学びの場面	・花材のワイヤリング、テーピングの動作を互いに撮影し合い、よい点や改善点について意見交換する。 ・他者の動作を動画で確認し、自身の動作と比べることで、技術の向上に役立てる。 ・完成したコサージュを観察し、自己評価を行う。	
7 ICT活用	タブレット端末（動画の視聴・撮影）	
8 準備・打ち合わせ	タブレット端末(動画の視聴・撮影、Microsoft teams) 材料・道具：マリーゴールドのプリザーブドフラワー、葉もの、リボン、ワイヤー、フローラルテープ、はさみ ・前時までにはワイヤリングやテーピングの基本的な方法を練習する。 ・教師による動作見本を事前に見せ、動画に撮影したものをMicrosoft teamsにアップロードし、生徒が確認できるようにする。 ・事前、事後アンケートを実施し、コサージュ制作についての自らの知識や技術の定着を振り返る。	
9 仮説	・ワイヤリングやテーピングの動作を撮影することで、他者の動作を確認することができ、自身が正しい方法で実施できているかを視覚で理解できるため、技術の向上につながるであろう。また二人一組で意見交換することで、動作のよい点や改善点を相手に分かりやすく伝えるため、言語活動が充実するであろう。 ・動画で動作を見ることと他者からの意見を聞くことで、コサージュ制作の基本的な技術の再確認ができるため、知識や技術の習得につながるであろう。	

10 評価するポイント	評価の観点	A（十分に満足）	B（おおむね満足）	C（努力を要する）
二人一組で協力し、互いのワイヤリング・テーピングの動画撮影を行い意見交換ができる。	主体的に学習に取り組む態度	動画を見やすく撮影し、動作確認しながら良い点、改善点について積極的に意見交換ができる。	動画撮影ができ、互いの動作確認ができる。プリントに意見が記入できる。	動画が上手く撮影できず、互いの動作が確認できない。プリントに意見が記入できない。
コサージュ制作に必要な基本的な知識と技術を身に付け、コサージュを完成できる。	知識・技術	花材に適したワイヤリング・テーピングの方法を理解し、自ら積極的にきれいなコサージュが完成できる。	ワイヤリング・テーピングの基本を理解し、コサージュが完成できる。	ワイヤーが出ていたり、テープにしわや重なりがあったりして、きれいにコサージュを作ることができない。
11 主体的・対話的で深い学び場面など	 ①お互いに動作を撮影する様子 どうしたらきれいにできるかなどアドバイスし合う様子が見られた	 ②見本動画を見ながら各自実践する様子 各自のタブレットで視聴している生徒も見られた		
	 長さ1/3のところで、ループを作る（2つ） PowerDirector ③見本動画の一部(リボンワークの実践) 動作ごとにコメントを入力して見やすくなるよう工夫した	 ④完成したコサージュの写真 各自で写真をTeamsに提出させた		
12 生徒の変容	事前アンケートで「自分で作ってみたい」と答えた生徒は96%で、フラワーデザインに対し比較的兴趣が高いことが分かった。実際にコサージュ制作をする際には友人と意見交換しながら作業したり、わからないところを教えたりすることで、自身の理解が深まる様子が見られた。また、事後アンケート結果から、「動画や他者との対話を通じて、コサージュ制作についての学びが深まった」と全生徒が答えており、実践を通して知識・技術の習得につながった。初めはできなかったことができるようになり、知識の深化や達成感につながったようである。			
13 検証と考察	・他者の動作を撮影することにより、自身の動作の改善につながり技術の向上に役立った。また友人と意見交換することで、お互いのよい点を褒め合い、改善点を伝えあうなどコミュニケーションを取りつつ楽しみながら主体的に取り組むことができたと考えられる。 ・事後アンケートで、約8割の生徒が「動画を利用することで自身の技術が上達した」と答えており、動画で動作を繰り返し視聴し、他者から意見を聞くことで、コサージュ制作の基本的な技術を再確認でき、知識や技術の習得につながったと考えられる。			
14 振り返りと改善	・技術に個人差があるため、ワイヤリングやテーピングなど一つ一つの工程で時間内にできる生徒ができない生徒を待つ時間が多く、少し持て余していた。できた生徒にはできない生徒へ声かけや手伝いをするよう促した。待ち時間にワークシートを書くことを事前に伝えるなどの指導が必要であった。 ・フラワーデザインについては、実技を適宜導入して生徒の興味や関心を高めつつ、動画を利用することで知識や技術の習得に役立てたい。			